

事務事業 No./名称	□サービス部門 教育-09 ■支援部門		社会教育運営事業				
主管課	教育総務課	関連課	文化人権推進課				
分野名	生涯学習・文化						
目標 (目標値)	市民の生涯学習を積極的に支援できる体制づくり 鎌倉ゆかりの作品の散逸を防止し、それらを保存・活用する場をつくることで文化の創造に努める。						
人口等のデータ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備考		
	人口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
世帯数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯				
運営資源状況	事業の対象者数						
	決算値(千円)	5,550	6,940	9,004			
	(国・県)	480	438	508			
	(負担金等)	1,714	1,893	1,844			
	(一般財源)	3,356	4,609	6,652			
	人員配置数	1.2	3.4	4.8			
	人件費(千円)	9,836	30,059	42,005			
事務事業運営経費	協働のパートナー						
	総事業費(千円)	15,386	36,999	51,009			
	市民1人当りの経費(円)	87	209	288			
	対象者1人当りの経費(円)						
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名⇒						
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)
放課後子ども教室推進事業(参加人数)	△	目標値	140人	150人	160人	160人	160人
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	134人	148人	129人	130人	

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止
教育文化施設建設基金積立金	1,714千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒ □A ■B □C □D □E	
	事業の概要	教育文化施設建設の財源に充てるための基金を運用した。			
社会教育運営事務	3,836千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○		⇒ ■A □B □C □D □E	
	事業の概要	社会教育委員会議を開催した。子ども向けコンサート等社会教育振興事業、放課後子ども教室推進事業など、社会教育全般に係る事務等を行った。			
		①効率性   ②妥当性   ③有効性   ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要				
		①効率性   ②妥当性   ③有効性   ④公平性		⇒ □A □B □C □D □E	
	事業の概要				

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	社会教育振興事業等を実施しているが、厳しい財政事情などにより事業の実施回数や開催場所の変更が難しい。	
課題解決のための取組	開催する事業にできるだけ多くの人が参加できるよう、広報・啓発活動の充実を図っている。	取組の結果 □解決 ■未解決
未解決の課題	コンサート事業において、260名の定員に対し、500名を超える希望者全員を収容できる場所の確保。	

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切=○ 要改善=△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○	今後の方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了
	➡	②妥当性 ○		↓	A
③有効性 ○		教育総務課担当課長			
④公平性 ○		原田 幸子			

